

【目次】

1. 定例会内容ダイジェスト報告 (2012.11.12 開催分)
2. 次回定例会開催のご案内
3. 会員募集のご案内

【1. 定例会内容ダイジェスト報告】

日時：2012年11月12日(月) 13:30~17:00
場所：京都大学 東京オフィス
参加者数：〇〇名(講演者を含む)

(1) 「コンサート・ジャパンについて」

上田悦久氏(シーマ・ラボ・ジャパン; 当協会評議員)

コンサート・ジャパンへの登録申請に関する経緯説明がなされました。11月15日が申請締め切りであり、2つのプロジェクトに申請予定(現在; 申請済み)。

CONCERT-Japan: EU主体の共同研究案件) 日本側の参加を公募するもの。

- ・日本のサイエンス・テクノロジーについて共同で学ぼうというものだが、ヨーロッパが日本のサイエンス・テクを学びたいという意図もあるようだ。
- ・レジ協は ①エネルギーと②レジリエンス(対象は広範囲)の2つのパイロット・ジョイント・フォーラムに申請。
- ・スタートは来年4月から。ジョイント・フォーラムの中でいいテーマがあれば、2年間研究を継続するというもの。
- ・研究費用は、それぞれの国である程度のまとまった金額を出すというもののようです。

→ 申請した段階であり、レジ協が採用されるか否かは、現段階では全く未定ですので、採用された段階でまた詳しくお伝えしたいということでした。

(2) 「東日本大震災の発生とJAグループの対応」

赤堀三代治氏(ARMS 代表; 当協会評議員)

まず、JAグループの現状および果たすべき役割についての概略のお話をいただきました。その後、JAの持てる力とその力を発揮した形での現地活動について、赤堀氏が東日本大震災の被災地に実際に我が身を置いた時に感じたことも含めて、いろいろとお話いただきました。

特に、震災後いち早く(どこよりも早く)100億円規模の緊急義援金を供出したことや、東北における家畜飼料の主力供給拠点のうち7か所が被災し、飼料供給がストップするなかで、全国レベルで飼料輸送大作戦がとられたり、牛の移送作戦を積極的に推進した結果、多くの家畜たちの命を救った話等、大変感動させられる話があり、JAの力、存在意義を改めて認識することができました。

また、JAが全国組織の中で縦の整理と横の整理を積極的に推進し、全国2,200組織あったものを、現在は約700組織まで、整理・統合していることや、2012年IYCにおいてILOが

共同組合を高く評価した話なども伺うことができました。

当日使用スライド、他関連資料・記事等は以下の URL からご覧いただけます。

<http://infor-clip.269g.net/article/17366946.html>

→ なお、当日の赤堀氏の講演については、翌日（13日付）の日本農業新聞に掲載されました。
上記 URL から記事もご覧いただけます。

（3）下水道における 今後の危機管理のあり方について

森田弘昭 氏（国土交通省 国土技術政策研究所 下水道研究官）

東日本大震災発生後における同地域での下水道の被災状況、下水道処理場の被災停止と復旧状況等について詳細なお話を聞くことができました。上水道に比べ、災害時等でも、今まであまり表に出てこない下水道の重要性が再認識できたプレゼンだったと思います。

特に大事な点は、森田氏が話された「教訓」にあると考えます。

① 報道等において下水道の故障状況は伝えられていないこと

→ 電気、（上）水道、ガスの状況は、一緒に示すことが可能となっているが、まだまだ下水道の状況はすぐわかるようになっていない。

→ 実は上水道と下水道は生活上関連があり、上水道が通っても、下水道が不全ならばトイレは使えないということである。

→ 実は家の中のトイレについてはどこの管轄か、その所管がはっきりしていないそうである。（これはトレビアの？発見）

② （もう一点、私にとってはトレビアの？）農村、漁村で管轄が農林省と環境省で分かれており、これは今後最適な方法を考えて行かねばならない、ということでした。

③ あと場所により下水道の整備が遅れている、という印象が強いのだが、実は地盤沈下による土地のかさ上げとの絡みがあり、それが決まり、着手されないと下水道の整備ができないという要因があることも知ることができました。

④ そして、公だけでの復旧はなかなか難しく、いかに民間と連携していくかも大変大事だということでした。

いずれにしても、日本の下水道技術は世界最高水準にあるという話と、自治体で今まで別れていた水まわりをまとめて管理する「上下水道課」という組織が増えてきている、という話を伺い少し明るい気分に戻れました。

→ 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

国土交通省「業務継続計画決定について」は以下をご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/kisha07/05/050621_.html

（4）ネット誹謗中傷と企業の対応方法

清水陽平 氏（弁護士；法律事務所アルシエン；当協会評議員）

身近に起こる可能性が高いにもかかわらず、やや意識の外に起きがちな「ネット問題；いわれなき誹謗中傷」について、専門家の立場から、対応についての詳細なお話を聞くことができました。

書き込み人物を特定することがなかなか難しい状況の中で、どうやって対応していくのか、について丁寧に説明いただきました。

- ① 不法な書き込みを発見した際の、プロバイダへの削除要請と裁判所への仮処分申請の関係
- ② 「プロバイダ責任制限法」と「送信防止措置依頼書」の話、依頼書の中の「違法性阻却事由には、公共性や事実性がないことを説明しなければならない。
- ③ コンテンツ・プロバイダに対しアクセス・ログの保存を求める仮処分が大事だが、これは見つけたら即対処しないとイケない。通常アクセス・ログは概ね3ヵ月程度で更新されていく。

など、知っているのと、知らないのでは対応の的確さが違うのだろうな、と考えさせられました。やはり事が起こる前に理解し準備しておくことが大事だと思いました。

→ 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

(5) BCMS の概要 — 基本文書は ISO22301

黄野吉博（社団法人日本工業技術振興協会；当協会代表理事）

BCMS 関連の ISO 文書（主に 22300 シリーズ）の JIS 化の進行状況、および各官公庁（内閣府、経産省、中小企業庁、中央防災会議等のそれぞれの考え方についての説明が行われた。

サプライチェーン関係の ISO28000 シリーズの JIS 化および普及活動の動きに関する情報も知ることができた。

ISO22301 と ISO ガイド 83 との関連性と ISO22301 の各セクションについてのポイント説明を受けました。

→ 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

【2. 次回定例会開催のご案内】

日時：2013年2月4日（月） 13:30 - 17:00

場所：京都大学 東京オフィス <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 27 階

参加費用：無料

プログラムは決まり次第、当協会 HP にて、順次（追加）ご案内いたします。

【3. 会員募集のお知らせ】

当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会（無料）にご参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

（参考）個人会員の年会費は 10,000 円（消費税込）です。

法人会員（105,000 円）もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

http://www.resilience-japan.org/aboutus/application_form

※ 本メールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 本メールマガジンにお心当たりがない場合、また購読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

[「info@resilience-japan.org」](mailto:info@resilience-japan.org)

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>
